

岐阜県中津川市 廃校利活用事例(旧神坂小学校)



中津川市文化スポーツ部生涯学習スポーツ課

中津川市はどんなまち？

～大阪からのアクセス～

- ・新幹線で名古屋まで約50分
名古屋から電車で約1時間

- ・高速道路で約3時間30分



- ・2027年開業
リニア中央新幹線
岐阜県駅設置

東京(品川) — 中津川間 約58分
2045年 東京—大阪間 開業

中津川市はどんなまち？

面積 676.45km²
人口 78,359人
(R1.9.30時点)

豊かな自然と
中山道を中心に
培われた文化が残るまち
なかつがわ

「ほど良いまちなか」
「自然あふれる田舎」

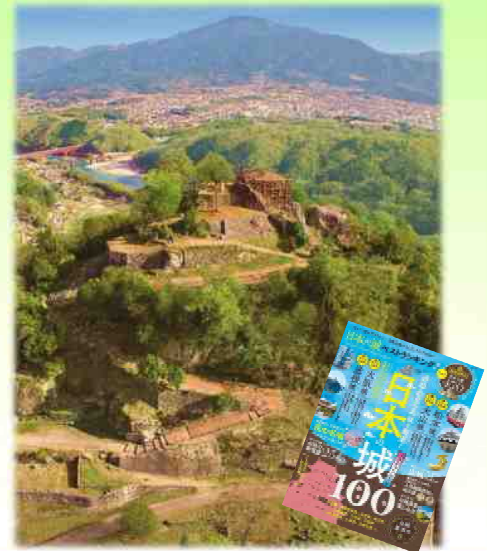
という魅力をもったまちです。



日本百名山の一つ
恵那山

市街地
と
木曾川

国の史跡
岐阜の宝もの
苗木城跡



《遊》



《食》



たけのこ



栗きんとん



五平餅

《文化》



地歌舞伎



中山道
(馬籠宿)

馬籠ふるさと学校（旧神坂小学校） 活用の経緯

1959-60（昭和34-35）年	長野県山口村立神坂小学校完成
1997-98（平成9-10）年	校舎の全面改修を実施
2005（平成17）年	越県合併により中津川市神坂小学校と統合し、同年3月末に廃校
廃校後	馬籠ふるさと学校（社会教育施設）として運動施設や教室の貸館利用
2017（平成29）年	研修・宿泊施設及び地域の拠点施設とするため改修（事業費：79,793千円）
2018（平成30）年	指定管理者制度にて運用開始

中津川市の人口データ

	人口 (H17⇒H27)	高齢化率 (H17⇒H27)	出生率 (H17⇒H27)
中津川市全体	84,080人⇒78,883人 (6.2%の減少)	25.0%⇒30.9%	721人⇒601人 (16.6%の減少)
山口・馬籠地域	1,972人⇒1,723人 (12.6%の減少)	29.9%⇒36.1%	20人⇒11人 (45%の減少)

廃校活用にあたって取り組んだこと①

○施設の有効活用の方法について、地域協議会と協議
⇒人口流出と少子高齢化が急速に進む中で地域に活力や賑わいを取り戻すための拠点づくり

その中で、既存学校施設をそのまま活かし、中津川市の豊かな自然や近隣にある文化財観光地（中山道馬籠宿）が満喫できる、

- ・スポーツ合宿機能
 - ・外国人観光客宿泊機能
 - ・地域交流機能
- を有した施設整備を目指す



廃校活用にあたって取り組んだこと②

○老朽化した集会施設を廃止し機能を集約

○プロポーザル方式により、設計、改修、管理運営を一括で募集し、設計から管理運営者に関わってもらえるようにPFI手法を用いた

⇒施設を有効活用するため、民間による視点から提案を募集することでよりよい施設改修を目指した

○今回の整備を機会に民間による管理運営ノウハウを導入し、自立に向けた取り組みを検討

⇒指定管理者制度を導入することで、企業の「稼ぐ力」や「人材」との連携を図ることで施設の利益及び交流人口の増加を目指した

○補助金の活用

⇒国庫補助金、内閣府の地方創生拠点整備交付金（補助率50%）を活用

企業決定の決め手

・平成29年度公募型プロポーザル方式にて、株式会社クアリゾート湯舟沢を選定

【選定理由】

・近隣に所有する温泉施設（クアリゾート湯舟沢）と連携することにより、温泉の利用、食事提供、管理運営スタッフなど施設の充実が図れる

・宿泊機能を自主事業とすることで、近隣観光地へのインバウンド観光客を見込んだ事業展開を期待

苦労したこと

・地域コミュニティの中心施設として重要な存在であった当施設への住民の意向も考慮するため、地域の代表者で形成された「馬籠ふるさと学校活用推進協議会」との協議

・地域拠点施設、広域交流施設としての施設運用、事業推進方針について協議

・施設内に、地域が専用で利用できる会議室を設定することで合意を得ました。



廃校活用のメリット

・地域の方が活用するうえで、もともと利便性の高い場所に建設されているため、集会施設として活用しやすい立地条件である



・老朽化した集会施設を集約することで新たな地域コミュニティの拠点、防災避難所としての利用が可能

・近隣観光地である中山道馬籠宿へのインバウンド観光客へ対応した交流施設として活用

近年の実績と今後の見通し

